



はじめに

著者	足立 眞理子
引用	女性学連続講演会. 2004, 9
URL	http://hdl.handle.net/10466/9987

はじめに

大阪女子大学女性学研究センター、第9期女性学連続講演会は「『雇用労働』とジェンダー再配置」と題して、現在急速に変化している「雇用労働」の実態と、新たな労働現場での配置が、どのようにジェンダーによって再編されはじめているのかについて考え、討論いたしました。

従来、「雇用労働」という言葉が意味していた「働きかた」には、国民国家における、法的、制度的、慣習・慣行的諸要素が織り込まれていました。例えば、「就職する」という言葉と、「アルバイトをしている」という言葉では、その「働きかた」において、ただ労働するという以上の意味が暗黙に込められていました。仕事への熱心さ、やりがい、企業へのロイヤリティ、協同性、そして、「働いている」ことを通した将来設計、退職後の暮らし方（社会保障制度のあり方）などにおいて、この両者はある種の区別がついているものとみなされてきました。

しかしながら、今日、そのような明確な区別というものは曖昧になり、「雇用労働」、「働きかた」の多様性ますます進行しているといわれています。今日のグローバル化によって生じているという、これらの「雇用労働の多様化」は、「雇用労働そのものの溶解」を引き起こしているといえるようです。

そうであれば、「雇用労働」とはそもそも何なのでしょう。雇用労働を下支えしているといわれてきた年金などの社会保障システムとの関係は？そして「失業」とは？

また、このような状況は、従来の家族関係やジェンダー関係にたいして、どのようなインパクトを与え、その結果、今日、どのような市場経済社会が形作られつつあるのでしょうか。そして、これらのなかでのジェンダーに敏感な制度構築やジェンダー秩序の組み替えの可能性とは、どのようなものなのでしょうか。

これらについて、第9期女性学連続講演会の報告集が、有効な論点を提供でき、皆様とともに考え、日々の中で活かしていくことができるきっかけとなればと願っております。

女性学連続講演会・連続セミナーに積極的に参加され、熱心に討論していただいた皆様に心から感謝申し上げます。

大阪女子大学女性学研究センター
足立 眞理子